

## &lt;事業報告&gt;

詳細は20年度活動報告書参照。

## 1. 会議体関係

- ・5月の理事会、総会、対外加盟団体の県レク理事会・評議員会等、いずれも書面方式で実施。10月の理事会も書面方式で計画していたが実施できなかった。
- ・JOAの中四国九州ブロック会議がZoomミーティング形式で開催され佐藤が出席した。主要議題はブロック選出理事推薦についてであるが、JOAからの各種近況報告などもあった。

## 2. 主催・主管イベント

## (1).オリエンテリング大会の開催

- ・当初計画に対しくらしき山陽ハイツの大会を11月に追加したが、4月の白石島大会は中止となった。結局昨年同様5大会の開催であるが、参加者総数は個人276名、Gr51組147名と白石島大会が実施された前年度の個人190名、Gr47組114名よりも大きく増えた。特に由加山、吉備高原は倍増レベル。

## (2).その他イベントの開催

- ・コロナ禍のため年度計画に入れてなかったが、基本技術教室は希望者が見込まれ早期の開催検討が必要。

## 3. 協力イベント

- ・運営協力予定の白石島トレイルラン、および(協)おかやま医療福祉N/W秋の研修は、いずれも中止。

## 4. その他の取り組み

- ・大会開催に合わせてのOMAP作成整備(マーキング含め延べ10日、前年は12日)
- ・全日本リレー(鹿児島県)は広島県との連合チームでXJに1名派遣した。
- ・ねんりんピック岐阜2020への選手派遣は県、岡山市合同チームを派遣予定であったが1年延期になった。
- ・競技者登録、認定指導者の更新登録およびスポーツ安全保険加入事務は引き続き対応した。
- ・近畿OL連絡会の大会開催日程調整に引き続き参画した。
- ・資産の維持管理、情報収集と広報等含め事務局定例業務は通常通り実施。
- ・閉谷学校からパーマネントコースの整備を依頼され取り組みを開始しつつある。
- ・JOAからガバナンスコードのセルフチェックを求められているが未着手。

## &lt;会計報告&gt;

詳細は20年度収支決算報告書参照。

## ・収入

大会参加費11万円増、および21年度分のスポ安保険料、競技者登録料、認定指導者登録料が年度末に例年より多く徴収できたためなどで、E-Cardレンタル収入がゼロであったが期首計画より約15万円増。(帳簿上形式的に必要で記載している山陽ハイツ参加費の代行徴収と支払い分約3万円は除外)

## ・支出

期首計画より約3万円減。主な増はシステムウォッチ、非接触体温計購入によるイベント運営費4万円。主な減はE-Cardを補充しなかったためのEMIT関係補充費予算5万円(補充しておれば約14万円要)など。

- ・収支はほとんどトントンであった期首計画に対し約18万円のプラスとなった(前年は0.7万円のプラス)。

## &lt;総括&gt;

- ・新型コロナウイルス感染予防のJOAガイドラインと指針を踏まえ設定した新たな大会開催要領は、参加者にも好意的に受け入れられ、無難に開催できた。(ただパークOで地元民から苦情を受けたことは反省)従来最大規模の白石島大会が中止になっても、イベント参加者は前年より大幅に増えたが、コロナ禍で大会を渴望しているオリエンティアが多いことに尽き、実施して大変よかったと考える。反面、新たに参加してくれるようになった県内在住の多くの参加者に、密を防ぐため仲間意識につながるルート談義などの対話を通じての働きかけがほとんどできなかったのは残念であった。
- ・見かけ上の収支は大きくプラスを確保できたが、一番の要因は見通しが全く不透明であったためE-Card補充をしなかったためである。例年通りの補充をしておれば15枚約14万円必要であり、来年度は補充する必要がある。
- ・今年度、フレッシュな若手でしかも経験のある2名が加わったことは、大会運営面、競技力の面においても大きな戦力になり、今後従来運営を踏襲するのみでなく活力ある新たな活動施策に取り組む必要がある。
- ・ただ、活動を通じての相互の意思疎通、仲間意識の向上などにつながる対話、親睦の場、時間などは制約されて十分でなく今後の課題である。

以上